

# 出張報告書

2022年8月8日

所 属	職 名	氏 名	
口腔病態外科学講座	准教授	菅原 圭亮	
出張目的	口腔がんの基礎研究と頭頸部悪性腫瘍治療技術の習得		
出張地	ドイツ連邦共和国 ミュンヘン工科大学 口腔顎顔面外科学講座	時 期	2021年7月23日 出発 2022年7月22日 帰着
<u>報 告 事 項</u>			
<p>2021年7月23日から2022年7月22日までの1年間、ドイツ連邦共和国ミュンヘン工科大学口腔顎顔面外科学講座（Technische Universität München (TUM), Mund, Kiefer und Gesichtschirurgie: Prof. K-D. Wolff）に Visiting Professor として長期海外出張させていただきましたので、その概要をご報告いたします。</p> <p>ミュンヘン工科大学はドイツ連邦共和国バイエルン州ミュンヘンにある総合大学です。工学分野では世界トップクラスで、多くの学部が世界の大学ランキング 50 位以内に入り、ノーベル賞受賞者をこれまでに 19 名輩出しています。工科大学に病院が設立された経緯としては戦時中、修道士たちがコーヒーショップのスペースで負傷者を看護したことが始まりで、1967年に Georg Maurer 氏の尽力によりミュンヘン工科大学の付属病院（Klinikum rechts der Isar TUM）になったとのことです。</p> <p>ミュンヘン工科大学付属病院はヘリポートを有する救急センターが併設され外傷患者が多いこと、また Prof. Wolff を始めスタッフ約 20 名全員が医師免許・歯科医師免許を有するダブルドクターで、Mirrosurgery を専門とすることから頭頸部がん手術がヨーロッパの中でもトップクラスの件数とレベルです。月曜日から金曜日まで頭頸部がん手術を中心に外傷、唇顎口蓋裂、顎矯正手術などの全身麻酔手術に参加しました。病院での教育では、実習学生に日々行われる口頭試問とその回答、学生からの質問のレベルの高さ、そして高いモチベーションに驚きを覚えました。また Prof. Wolff から依頼を受け、若手スタッフを対象に顎矯正手術の講義を行う機会を得ました。</p> <p>研究は頭頸部がんの分子生物学的研究、遊離皮弁に関する新規デバイスの開発、デジタルデバイスの口腔顎顔面外科手術への応用に関する研究を多くのスタッフが高いアクティビティで診療後や週末に行っていました。私は再建手術におけるデジタルデバイスの応用、3次元カメラを用いた術前術後の顔貌評価に関して研究を行ってきました。これらの内容は第 68 回日本口腔外科学会総会での発表を予定しております。また、遊離皮弁に関する解剖学的検索、モーションキャプチャーを用いた新規教育用シミュレーターの開発に関してミュンヘン工科大学と共同研究を開始する準備を行ってまいりました。</p> <p>長期海外出張期間中はコロナ禍ということもあり、オンラインで日本や海外に向けて講演や学会発表を行いました。（第 66 回日本口腔外科学会 日独シンポジウム・25th Congress of the European Association for Cranio Maxillo Facial Surgery・第 66 回 日本顎口腔機能学会 シンポジウムなど）また、2022年6月にドレスデンで行われた 72th DGMKG（ドイツ口腔顎顔面外科学会）に現地参加し、多くの参加者と意見交換しヨーロッパの研究・臨床の最新情報を得ることが出来ました。</p> <p>最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただいた、関係各位ならびに井出吉信理事長、新谷誠康国際交流部長、片倉 朗教授に感謝申し上げます。加えて、口腔顎顔面外科学講座、口腔病態外科学講座の医局員、看護部、歯科衛生士部、関わっていただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。今回得た経験を少しでも本学の発展のために尽力していく所存でございます。</p>			